

食育通信

～みんなで食育を実践しよう～

福崎小学校では町主催の朝ごはんコンテストをきっかけに、数年前から、5・6年生の夏休みの課題として、朝食作りに挑戦しています。おうちの方に手伝ってもらいながらも、自分で朝食を作ることを通して、毎日朝食を作ってください家族に感謝し、朝食を毎日しっかり食べることの大切さを家族みんなで再確認するきっかけになっているようです。

ちなみに朝ごはん作りの合言葉は、“手早く、おいしく、バランスよく”です。どの作品も思わず「いただきます！」と言いたくなる素晴らしいものでした。今年の印象は、「とってもボリュームー」で、年々進化している福小っ子の朝ごはんに期待しています

『福崎小学校朝ごはんコンテスト』

福崎小学校では、今年も“朝ごはんコンテスト”を実施しました！



もっと！知ってほしいもち麦のこと



溝掘機で田んぼの周りに排水溝を作ります。



もち麦の作付時期がやってきました。種まき前には、土づくり肥料を散布し、排水を良くするための排水溝を作ります。

11月中旬に、トラクターの後ろにつけた播種機で種をまくと、2週間ほどで、可愛い芽が出てきます。

福崎町内の栽培ほ場

福崎町
もち麦栽培田
面積約100ha

「良質なもち麦をたくさん収穫したい」と生産者一同、作業に励んでいます。

今年は、6つの営農組合と4人の個人農家で、約40haのもち麦を作ります。



(農)坂坂営農組合では、耕しながら同時に、溝掘りができるように、新しい方法を試しています。

平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果

平成19年度から実施している全国学力・学習状況調査が、今年は国語・算数(数学)に理科を加えた3教科5分野で、全国すべての小中学校(小学6年生・中学3年生)で実施されました。今回の本町の子どもたちは、小学校・中学校ともすべての分野で全国平均を上回りました。素晴らしいことです。ただし、本調査は、学力の一部を調査したものであり、すべての教科が同様であると証明できかねます。しかし、頑張っていることは高く評価できます。また、同時に行いました生活調査についても参考にしてください。

教育委員会・各小中学校においては、現状を評価しつつも、今回の分析と今後の対策を考えて、他教科でも同じような成績が上げられるようさらなる指導力の向上に励みます。



学力調査について

小学校正答率 [公立のみ] (単位：%)

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
全国	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8
兵庫県	70.1	65.5	75.2	46.9	60.3
福崎町	75.1	67.6	77.4	46.2	60.9
指数	107.3	103.4	102.9	102.7	100.2
文科省基準	水準以上	水準内	水準内	水準内	水準内

中学校正答率 [公立のみ] (単位：%)

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
全国	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0
兵庫県	77.1	65.9	67.1	42.8	53.3
福崎町	83.0	70.7	74.9	48.2	60.7
指数	109.5	107.4	116.3	115.9	115.9
文科省基準	水準以上	水準内	水準以上	水準以上	水準以上

Aは基本力を見る問題。Bは応用力を見る問題。

指数は全国平均を100としています。

正答率の全国平均より±5.0以内は、水準となっています。



生活調査より

よくできている項目

- ・難しいことでも失敗を恐れず挑戦する。
- ・いじめはどんな理由があってもいけない。
- ・ものごとを最後までやり遂げている。
- ・学校の宿題はよくしている。
- ・自然の中で遊んだり観察をしている。

気になる項目

- ・家庭での予習学習の時間がもう少しほしい。
- ・感想文を書くのが苦手である。
- ・解き方や考え方をあまりノートしていない。
- ・解答時間に余裕が持てない。

総括

- ・小学校での基礎の定着が、中学校での後る伸びに繋がっている。
- ・問題に対する無回答が激減した。(最後まで諦めず問題に取り組む姿勢が向上している。)
- ・学習支援員の配置により、きめ細かな指導ができています。
- ・総じて、記述式問題が不得手である。
- ・生活実態からは、数年来同じような傾向が見られる。(・朝食を毎日食べている。・保護者の学校行事への参加は多い。・地域の行事によく参加している。・人の役に立つ人間になりたい。・学校に行くのは楽しい。・休日の勉強時間が少ない。・長い文章をまとめるのが苦手である。)

今後の対応

- ・町学力向上委員会・各学校で現状分析をしっかりとし、学力向上に向けた学習指導・生活指導を高める。
- ・自ら学ぶという能動的な姿勢を育成する。そのため、授業中にノートをしっかりととり、整理させる。
- ・さらに、今後も、町支援による少人数学習や複数指導によるきめ細やかな指導をする。
- ・読書習慣の定着と感想文やまとめを書き、書く力や人の考えを理解する能力をつける。
- ・保護者にも、引き続き子どもの家庭学習の充実や落ち着いた家庭生活への支援をお願いしていく。
- ・携帯やスマホの使用については、児童会や生徒会で決めた約束事をしっかりと守らせる。

柳田國男・松岡家記念館開館40周年
松岡鼎生誕155年・柳田國男生誕140年記念展

松岡 鼎展

～柳田國男を導いた兄～

開催中

入館無料

お見逃しなく！

教育者

医者・政治家



日本民俗学の父と称される柳田國男には、松岡鼎という兄がいます。鼎は松岡家の長男として、松岡家と國男をはじめとする弟たちを支え続けました。記念館では、福崎で教育者としてつとめた後、医学の道へと進み、さらに地方政治家としても活躍した鼎の功績を、遺された資料や写真で紹介する展示を開催しています。資料を通して、幕末・明治・大正・昭和の激動の時代を生きた抜いた松岡鼎の生涯にふれてください。

いよいよ

11月23日(月・祝)まで！

千葉から里帰りした鼎の資料を、福崎で一堂に見られる展示です。

会場 柳田國男・松岡家記念館
休館日 月曜日、祝日の翌日
開館時間 9:00～16:30

福崎町文化財だより 68

福崎町教育委員会
柳田國男・松岡家記念館
神崎郡歴史民俗資料館

教師への学び

～師範学生時代～

鼎は、教員を養成するための学校である師範学校に入學しました。

明治9年(1876)に師磨県の教員試験に合格し、小学校の教員になりましたが、ふたたび師範学校で学ぶ道を選び、県内のトップ校である神戸師範学校(現神戸大学)へと進みました。

ここで鼎は、寄宿舎生活を送りながら学業に励み、明治11年、第1期生として神戸師範学校を卒業しました。

師磨県教員試験合格証書

明治9年3月16日



そして、そのあと、辻川に戻り、昌文小学校(現田原小学校)の校長となりました。

兵庫県小学準訓導辞職願書
明治10年1月10日



神戸師範学校小学師範学科
第二級卒業証書

明治11年2月28日



医者をめざして

校長となった鼎でしたが、教員を辞め、医者をめざして勉強をしました。当時、家が貧しく、高価な医学書が買えませんでした。
そこで、鼎は、友人から医学書を借りて、ノートに写して勉強をし、医科大学をめざしました。
医学書を写したノート『彪氏外科総論』上（当館蔵）
明治17年5月



医者になる

27歳のときに医者になった鼎は、34歳で現在の千葉県我孫子市布佐で凌雲堂医院を開業しました。
鼎は、診療だけでなく、正しい病気の予防対策を伝える活動や継続的に啓発活動が

きる組織づくりに取り組みました。

布佐町長になる

鼎は、医療だけでなく、日本赤十字事業や郡制事業にも尽力し、政治活動にも加わっていきます。
亡くなる7年前にあたる昭和2年（1927）には、68歳で布佐町長に当選しました。そして、利根川にはじめてかかる橋の建設に着工しました。この橋の名前は栄橋といひ、井上通泰が名づけました。布佐町幹事嘱託任命書
昭和2年7月3日



建設中の栄橋

昭和3年～5年ごろ

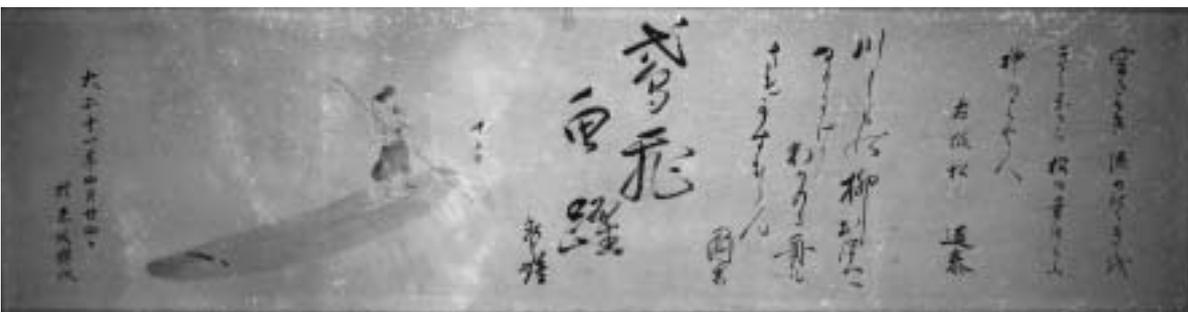


松岡家の

長男として

鼎は、親代わりとして、弟たちを見守り、支え続けました。
兄のもとには、弟たちが互いの近況報告やお礼を伝えた書簡や葉書、研究成果をまとめた著書が遺されています。その一つが「松岡兄弟寄せ書き」です。これは柳田國男の送別会で書かれたものです。五兄弟全員がそろった席で、通泰と國男は短歌、静雄は四字熟語、映丘は舟と船頭の絵を、それぞれ寄せ書きし、兄の鼎に贈りました。
このように、鼎は寄せ書きをはじめ、弟たちから贈られたものを大事に保管していました。
また、鼎のもとには、兄弟の幼少期から学生時代にかけての姿や五兄弟がそろった写真などがあります。
ここから、弟たちの成長を見守る鼎の気持ちをつかうことができます。

松岡兄弟寄せ書き
（右から井上通泰、柳田國男、松岡静雄、松岡映丘）
大正11年4月24日



井上通泰写真

明治17年



当館蔵以外の写真は、すべて個人蔵

國男・輝夫・静雄写真（左から）

明治31年



松岡兄弟写真

【前列】左から輝夫、鼎、松寄重
（寄は崎の異体字）

【後列】左から國男、静雄
明治32年11月25日



松岡五兄弟

柳田國男

第15話



福崎の身近にある歴史を掘り起こそう

松岡國男が歩いた道

神戸大学大学院人文学研究科

地域連携センター 研究員

井上 舞

柳田國男の最晩年の著作である『故郷七十年』には、國男が辻川で暮らしたころの思い出が、たくさん語られています。その中のひとつに、幼い國男が、北条(現加西市北条町)までの道のりを往復したときの話があります。

それは、國男が10歳にもならない頃。辻川にはまだ郵便局がなく、兄からの送金は、北条の郵便局に届けられていました。父の操は金銭の扱いに疎く、母のたけも体が弱かったため、國男は両親の代わりに、何度も北条の郵便局までお金を受け取りにいったといえます。

『故郷七十年』では、送金元を茨城県に住む長兄(鼎)だと言っています。ですが、この頃、鼎は医者になるために

東京大学医学部別課に在籍していたはず。鼎は医学を学びながら働いて、お金を送っていたのでしょうか。あるいは、当時大阪で働いていて、明治16年(1883)に亡くなった、次男俊次からの送金を、鼎からのものと思っていたのかもかもしれません。

いずれにせよ、國男は、母親から、お金を入れる腹巻を作ってもらい、子どもにはかなりの距離であろう、2里約8km(の道のりを、てくてくと歩いて行っただけです。しかし、行きはともかく、一家の家計を支えるお金を預かっていたの帰りは、幼い國男にとつて、恐ろしい道のりだったに違いありません。辻川と北条の間には、「郡境の所に大きな池が三つほどあり、淋しい、追剥ぎの出さうな所」もあつたのです。

そこで國男は、北条の外れにある、榎の生け垣がめぐらしてある家の前で、頼りになりそうなが通るかかるのを待つて、その後をついて辻川まで帰ったといえます。後年、國男は国内のみならず、世界各国を旅しています。旅を愛した國男の、最初の「旅」は、もしかしたら、この辻川と北条間の道のりだったのかもかもしれません。

ところで、福崎と加西を結ぶ道はいくつかありますが、辻川と北条の位置を踏まえれば、このとき國男が通ったのは、現在の県道三木穴粟線に相当する道と考えられます。また、郡境で池があるところ、という記述から、國男が「追剥ぎが出さう」と思っただのは、福崎町の東大貫から加西市の畑町にかけての一带だったと考えることができます。

この道は、今日では福崎町と加西市を結ぶ主要道路であり、交通量も多く、道沿いには家がたくさん並んでいます。しかし昨年、地域連携センターが、東大貫で聞き取り調査を行ったところ、現在とは全く異なる大貫の姿が浮かび上

がってきました。このときの調査では、福崎と加西の境の周辺は、昔は、福崎側は民家が3軒しかなく、加西側にはほとんど家がなく、怖かった。いたずらをする、大貫に連れて行くぞ」と言われたことがある。あの辺りは、追剥ぎが出るという話を聞いていたので怖かった。柳田國男が「追剥ぎが出さう」と言っただのは、感覚としてよくわかる。

というお話を伺うことができました。また、昭和23年(1948)の航空写真(『福崎町史』第一巻付図)を見てみると、東大貫の鴻ノ池の東側には、民家らしきものは見あたりません。こうした調査結果を踏まえれば、昭和初期には、まだ郡境の辺りは、明治の初めに國男が見たのと同じような風景が広がっていたのではないかと考えられます。

これまで、地域連携センターでは、福崎町の各所で聞き取り調査を行ってきました。その中で、地域の方のご協力のもと、伝承や行事、交通や

農業など、身近な歴史にかんする情報をたくさん集めることができました。そして、この身近な歴史のもとになる皆さんの記憶の中には、今回のお話のように、はるか昔のように思える、國男が辻川で暮らした時代の風景が垣間見える情報が含まれているかもしれないのです。

今後、聞き取り調査を通じて、福崎町の身近な歴史を掘り起こしていきたいと思えます。どうぞご協力よろしくお願ひします。



現在の県道三木穴粟線(鴻ノ池付近)

柳田國男ゆかりの「日本民俗学会」

日本民俗学会の年会（学術大会）が、11年ぶりに兵庫県（今回の会場は、関西学院大学）で開かれました。

研究奨励賞授賞式

福崎町では、柳田國男の功績を生かし、日本民俗学のさらなる発展を願って、平成24年度から日本民俗学会の研究奨励賞に副賞を贈っています。この賞は、35歳未満の次世代



受賞者の金子さん(右)と高寄教育長

福崎町で見学会

年会3日目(10月12日)の見学会では、辻川界隈へ42人の民俗学研究者が来訪されました。柳田國男の学問の原点となった、柳田國男生家、三木家住宅など、「故郷七十年」ゆかりの地を探索されました。



日本民俗学会のみなさんをフクちゃん、サキちゃんもお出迎え

の民俗学を担う若手研究者に授与されるものです。

今年、金子祥之さん（東京大学東洋文化研究所 特任研究員）の論文『災害格差を均衡化する仕組みとしての水利慣行 利根川下流域・布鎌地域における水害受容の論理』が受賞されました。

年会1日目(10月10日)に研究奨励賞授賞式が行われ、福崎町賞・金10万円を贈りました。

なお、受賞論文は柳田國男記念館と情報公開コーナー（役場・図書館・八千種研修センター）で閲覧することができます。

いよいよ11月23日(月・祝)まで!!

特別展「戦後70年 福崎と戦争の記憶」開催中

会場 歴史民俗資料館
 開館時間 9:00 ~ 16:30
 入館料 無料
 休館日 月曜日、祝日の翌日



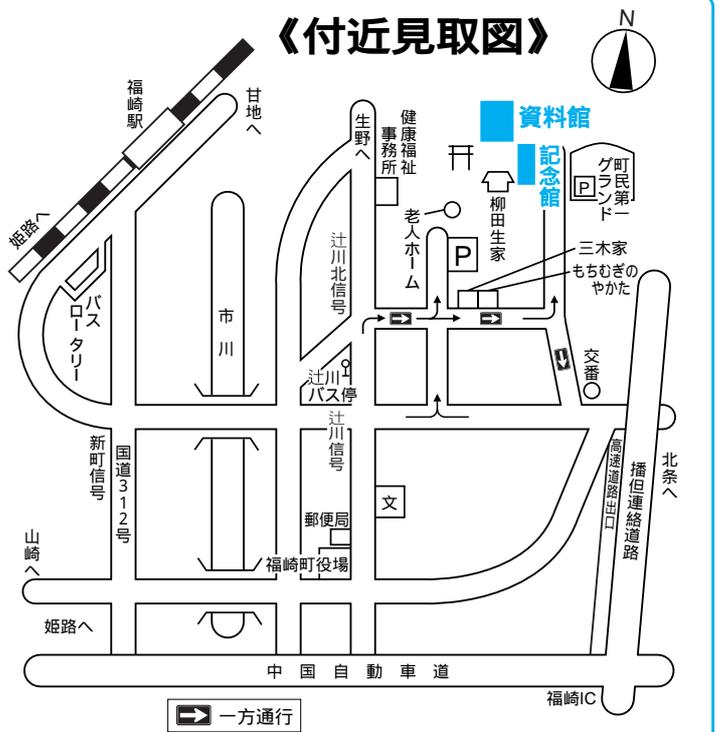
11月は文化財保護 強調月間です

文化財は、地域の歴史を伝えてくれる大切なものです。かけがえのない郷土の地域歴史遺産を、これからも長く未来へ守り伝えていきたいと思います。



東広畑古墳

《付近見取図》



柳田國男・松岡家記念館 歴史民俗資料館 利用案内

開館時間 午前9時～午後4時30分
 休館日 月曜日、祝日の翌日、12月28日～1月4日
 入館料 無料
 交通 JR播但線で福崎駅下車、徒歩約30分、またはバス・タクシーを利用。
 車は播但連絡道路・中国自動車道で福崎ICから約5分、または国道312号線を利用。



福崎町文化財だより 68 発行 平成27年11月5日
 ・福崎町教育委員会
 福崎町南田原316の1
 ☎0790220560
 ・柳田國男・松岡家記念館
 ・神崎郡歴史民俗資料館
 福崎町西田原1038の12
 ☎0790221000
 (記念館)
 ☎0790225699
 (歴史)